

会議録【全文筆記】

会議名称	令和８年度 第１回置賜定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録																																																	
開催日時	令和８年７月２３日（木） 午前１０時３０分～午前１１時５５分																																																	
開催場所	置賜総合文化センター ２階 ２０３ 研修室																																																	
出席者	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">(委員等氏名)</th><th>(所属団体等)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>会長</td><td>黒田 充紀</td><td>山形大学大学院理工学研究科</td></tr> <tr><td>副会長</td><td>田中 明子</td><td>米沢商工会議所</td></tr> <tr><td>委員</td><td>遠藤 央子</td><td>白布温泉 湯滝の宿 西屋</td></tr> <tr><td>委員</td><td>加藤 里美</td><td>米沢市民生委員児童委員連合協議会</td></tr> <tr><td>委員</td><td>小泉 玲子</td><td>米沢観光コンベンション協会</td></tr> <tr><td>委員</td><td>小関 洋子</td><td>米沢市青少年育成市民会議</td></tr> <tr><td>委員</td><td>佐藤 きく</td><td>米沢市婦人防火指導員連合会</td></tr> <tr><td>委員</td><td>佐原 弘之</td><td>山形おきたま農業協同組合</td></tr> <tr><td>委員</td><td>清野 雅好</td><td>米沢市社会福祉協議会</td></tr> <tr><td>委員</td><td>西川 友子</td><td>山形県立米沢女子短期大学社会情報学科</td></tr> <tr><td>委員</td><td>中井 晃</td><td>山形鉄道株式会社</td></tr> <tr><td>委員</td><td>結城 秀人</td><td>南陽市観光推進会議</td></tr> <tr><td>委員</td><td>中村真由美</td><td>旧川西町まちづくり委員会</td></tr> <tr><td>委員</td><td>伊藤 優子</td><td>小国町教育委員会</td></tr> <tr><td>委員</td><td>吉田 博之</td><td>白鷹町振興審議会</td></tr> </tbody> </table>		(委員等氏名)		(所属団体等)	会長	黒田 充紀	山形大学大学院理工学研究科	副会長	田中 明子	米沢商工会議所	委員	遠藤 央子	白布温泉 湯滝の宿 西屋	委員	加藤 里美	米沢市民生委員児童委員連合協議会	委員	小泉 玲子	米沢観光コンベンション協会	委員	小関 洋子	米沢市青少年育成市民会議	委員	佐藤 きく	米沢市婦人防火指導員連合会	委員	佐原 弘之	山形おきたま農業協同組合	委員	清野 雅好	米沢市社会福祉協議会	委員	西川 友子	山形県立米沢女子短期大学社会情報学科	委員	中井 晃	山形鉄道株式会社	委員	結城 秀人	南陽市観光推進会議	委員	中村真由美	旧川西町まちづくり委員会	委員	伊藤 優子	小国町教育委員会	委員	吉田 博之	白鷹町振興審議会
(委員等氏名)		(所属団体等)																																																
会長	黒田 充紀	山形大学大学院理工学研究科																																																
副会長	田中 明子	米沢商工会議所																																																
委員	遠藤 央子	白布温泉 湯滝の宿 西屋																																																
委員	加藤 里美	米沢市民生委員児童委員連合協議会																																																
委員	小泉 玲子	米沢観光コンベンション協会																																																
委員	小関 洋子	米沢市青少年育成市民会議																																																
委員	佐藤 きく	米沢市婦人防火指導員連合会																																																
委員	佐原 弘之	山形おきたま農業協同組合																																																
委員	清野 雅好	米沢市社会福祉協議会																																																
委員	西川 友子	山形県立米沢女子短期大学社会情報学科																																																
委員	中井 晃	山形鉄道株式会社																																																
委員	結城 秀人	南陽市観光推進会議																																																
委員	中村真由美	旧川西町まちづくり委員会																																																
委員	伊藤 優子	小国町教育委員会																																																
委員	吉田 博之	白鷹町振興審議会																																																
欠席者	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">(委員等氏名)</th><th>(所属団体等)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>委員</td><td>宮原 博道</td><td>高畠町政策審議会</td></tr> <tr><td>委員</td><td>鈴木 泉</td><td>飯豊町区協議会長会</td></tr> </tbody> </table>		(委員等氏名)		(所属団体等)	委員	宮原 博道	高畠町政策審議会	委員	鈴木 泉	飯豊町区協議会長会																																							
(委員等氏名)		(所属団体等)																																																
委員	宮原 博道	高畠町政策審議会																																																
委員	鈴木 泉	飯豊町区協議会長会																																																
オブザーバー	長井市総務参事兼総合政策課長、南陽市みらい戦略課長補佐、高畠町企画課企画調整係長、川西町企画財政課長、小国町総務企画課企画財政主幹、白鷹町企画政策課企画調整係長、飯豊町企画課長、置賜総合支庁総務企画部総務課連携支援主査																																																	
事務局	米沢市長、企画調整部長、政策企画課長、政策企画課長補佐、政策企画課企画調整主査、政策企画課主任、置賜広域行政事務組合事務局次長兼総務課長、総務課長補佐、総務課企画財政係長、総務課企画財政係主事																																																	
会議次第	１ 開会 ２ 委嘱状交付 ３ 市長あいさつ ４ 委員自己紹介 ５ 会長及び副会長選出 ６ 会長あいさつ ７ 協議 (１) 会議等の公開について (２) 令和７年度の取組について (３) 置賜定住自立圏第２次共生ビジョンの改定（案）について ８ その他 ９ 閉会																																																	
会議資料	次第 名簿 資料１ 会議等の公開について（案） 資料２-１ 令和７年度の主な取組について																																																	

	資料 2-2 置賜定住自立圏第 2 次共生ビジョン令和 7 年度進捗状況及び 成果指標等まとめ資料
	資料 3-1 置賜定住自立圏第 2 次共生ビジョンの改定（案）について
	資料 3-2 置賜定住自立圏第 2 次共生ビジョン（案）
会議内容	
【1 開会】 省略 【2 委嘱状交付】 省略 【3 市長あいさつ】 本日は大変お忙しい中、置賜各地からご参集いただき、また、先ほど委嘱しましたが 2 年間の任期の委員をお引き受けいただき誠にありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。置賜 3 市 5 町ですが、人が減り続けており、米沢市では年間千人程度減っています。今年は、1876 年に置賜、山形、鶴岡の 3 県が合併して山形県ができて 150 年となります。その時の山形県の人口は約 69 万人で、現在 100 万人を切って 99 万人とすると、150 年前は 30 万人少なかったようです。150 年前の置賜はみすぼらしく貧しかったのかというと実はそうではありません。当時置賜を訪れたイザベラバードの旅行記には、置賜の美しい田園風景、人々のきれいな服装、よく働く姿、にこやかな生活から、ここは東洋のアルカディアで理想郷である、と記しています。当時のイギリスは蒸気機関車が走る圧倒的な先進国であり、日本は発展途上国レベルだったにも関わらず、川西町、南陽市、米沢市に泊まった彼女は、日本人の生活は豊かで東洋のアルカディアだと称したのです。そんな 150 年前の豊かなふろさが今できないはずがありません。人口が減り続けるのは間違いなく、その考え方で米沢市の総合計画を作りました。人口が減り続ける中で一人ひとりがどう豊かさを感じることができるのかという視点から、3 市 5 町が力を合わせて地域づくりをやらなければならないと思います。J R 東日本から置賜地域が 2028 年 1 月～3 月の重点共創エリアに選ばれました。この夏は庄内が「すーっと心の深呼吸。」というキャッチコピーで都心などで大々的に宣伝されています。それに対応する形で、厳しい冬ではありますが、置賜としてのガストロノミーツーリズムやスノーアクティビティを世界に発信しようと計画しているところです。防災を共に構築するだとか、小さな地域づくりを共に考えるだとか、様々なテーマで 3 市 5 町が力を合わせてアイデアを議論いただきたいと思います。子どもたちがここに帰ってきたいと思える置賜を一緒に作りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。	
【4 委員自己紹介】 省略 【5 会長及び副会長選出】 会長に黒田充紀委員、副会長に田中明子委員が選任された。 【6 会長あいさつ】 只今、会長を仰せつかりました黒田充紀と申します。よろしくお願いいたします。山形大学で教授をしている 26 年間の中で、地域の変化を通してこれからどうしていくかというのは非常に大事な問題ですので、ぜひ皆様一緒になって将来を考えていただきたいと思います。皆様にはぜひ積極的に発言していただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。	

【 7 協議】

(1) 会議等の公開について

(資料 1 に基づき説明)

会議録及び配布資料について公開する取扱いとして決定した。

(2) 令和 7 年度 of 取組について

(資料 2 - 1、資料 2 - 2) に基づき説明)

(3) 置賜定住自立圏第 2 次共生ビジョン改定 (案) について

(資料 3 - 1、資料 3 - 2 に基づき説明)

委員	置賜成年後見センターについて、現在は司法書士の先生方が担当される場合があると聞きますが、それで間に合っているのか、置賜で新たに成年後見人を養成しないと足りないのか、資料では把握ができないため、明らかにする必要があるのではないのでしょうか。
事務局	後見人の数について、後見人が不足しているかどうかまでの数字の分析はしておりませんが、センターでは首長申し立てに関する調整をする受任調整会議が機能しているため、問題ないと考えています。一般の申し立ては私どもで把握できず、具体的な数値目標を掲げるのは難しいと考えております。
委員	成年後見人の社会的需要は認識しているが、社会福祉に関する知見がないため、もし問題点があるのであれば教えてください。また、置賜成年後見人センター主催の研修会はどのような内容を考えていますか。
会長	私も成年後見センターがどのようなものなのか把握しきれていないため、教えてください。
事務局	置賜成年後見センターとは、事業の実施要項に基づいて成年後見制度の利用促進と円滑な制度運営ができる体制づくりを図るものです。成年後見制度や権利擁護についての周知、普及活動をしております。また、各市町の行政機関に対し、出張相談や受任調整会議などの機会を通じ権利擁護の支援についての知識習得や対応向上に繋げております。
会長	研修会について、令和 8 年度の事業計画では、各市町、行政職員、支援者のそれぞれを対象とする研修を予定しております。
委員	令和 7 年度の取組で、米沢市立病院の休日診療がスムーズに受けられるようになりました。前は輪番であったため非常に分かりにくかったですが、今は解消されて非常に大きな改善だと思います。移住を考える人は、まず医療や教育、交通を大事に思われるが、私から見ていて医療は充実しているように思います。
事務局	ナショナルジオグラフィックが発表した世界の旅行先 25 選に山形県が選ばれ、蔵王や銀山温泉がクローズアップされましたが、オーバートーリズムにより置賜にも観光客が流れて今年の冬は天元台が賑わったようです。市長からもあった J R 東日本重点共創エリアに置賜地域が選ばれたこともあり、このチャンスを生かしたく、これから 2、3 年の長期計画で置賜全体の観光振興について取り組む計画などはありますでしょうか。
事務局	置賜全体でのインバウンド振興を含めた計画は、米沢市が中心市ではあるものの総合支庁の観光振興室が中心となって取り組んでおります。まだ

置賜を統一した大きな計画はないため、今後検討していく必要があると考えます。

会長

観光振興について、お金を払ってサービスを提供するのも確かに観光ですが、その先について、ガストロノミーや地域の人との触れ合いなど、発展的な観光は何かあるのでしょうか。

事務局

置賜共通だとは思いますが、通過型ではなく滞在型のための体験型の観光の推進は重要な視点だと思っています。ガストロノミーツーリズムとして食文化を体験してもらい、生産者とも触れ合いながら地域に愛着を持ってもらうことを取り入れることは重要だと思っています。

委員

商工会議所でも観光振興について会員と話す機会がありますが、置賜は通過型観光で宿泊してもらえず地域にお金を落としてもらえないと聞いています。今回は様々チャンスがあると感じているので、各市町それぞれの努力も必要ですが、置賜定住自立圏共生ビジョン懇談会があるので情報共有しながら置賜全体の観光振興、地域振興に取り組んでもらえればと思います。

委員

観光は「光を観る」と書きますが、光とは何かを考えると、未来を観るということが観光ではないかと思っています。地域の未来や自分の未来をお客様に提供するということが重要だと思っています。お金を払った人が未来を見られるサービス業という面もありますが、サービス業に参与した人自身が地域の未来を見出すような産業になればいいと思っています。今、観光と言うとフロービジネス型になっており、観光資源としてのストックを保持しながらどうしていくかが課題であります。単なる写真を撮るだけ、観るだけ、食べるだけ等のフロービジネスだけでは、低価で高度なサービスを提供できるエリアが勝って、それに巻き込まれた地方は疲弊してしまいます。置賜は何を守るべきかを一番に決めた上で、そのために何をやらばいいかを決めないと、観光が地域を破壊していくことになってしまうと感じています。置賜エリアは上杉鷹山の教えなどがあることから、教育など人に投資する場所だと思っています。若い人が活躍できるエリアを作り、観光の話や地域の話もできるように考えています。

委員

資料3-2の28頁、「3地域連携DMOの運営」の事業内容について、大まかな内容は理解できましたが、もう少し具体的に何を目標にして目指すのか、そのために具体的に何をするのかを示してほしいです。置賜ではJ R東日本の重点共創エリアに指定され、米沢市では独自の2030年上杉謙信公生誕500年もあり、これに関して民間のプラットヨネザワを中心に事業が進んでいると新聞に掲載されていました。官民それぞれ同じ目標で同じ方向を目指していると思うので、もう少しお互いが協力していければもっといい方向に進むのではないかと思いますがいかがでしょうか。

事務局

米沢市のDMOの推進の話になりますが、米沢市では米沢市版DMOということで、実行部隊としてプラットヨネザワ、その上に観光推進機構を設け、観光コンベンション協会にも参画いただきながら進めています。その中でも観光DX推進事業としてのデータの収集、地域の魅力磨き上げ事業として主に台湾の観光客に向けたツアー造成やB to Bの商談会などの実施をしています。また、プロモーション事業として国内外の観光誘客に向けたプロモーション、地域商社事業として国内外の展示会も行っています。重点共創エリアについては、2028年の1～3月に実施されますが、総合支庁の観光振興室を中心に置賜が一体となってこれから進めていくとこ

会長	ろです。7月24日に第一回目の推進会議があり、3市5町がどう進めていくか話し合うところです。主に東京となるかと思いますが、「置賜」というキーワードで大々的に宣伝してもらえるため、有効に使いながら受入態勢、様々な事業の構築をこれから行う予定であります。 私は東京の出身で、ほぼ都会の生活しか知らない私の知り合いが米沢にきて何に一番心が動くかという、特に農家の方との関わりや暮らしをみたときだと言います。観光というのは、ここで暮らしてもいいのではないかという心の揺らぎを地域で目指して差別化していくことが必要であり、置賜にはその魅力が十分にあります。都会に無くて置賜にある魅力について、プラットヨネザワなど民間は積極的に実施しているが、全体に広がっていないため、行政や関連団体が注目していく雰囲気になればいいと思います。関係人口になりえる学生も、地元の住人との繋がりが強いと地元に残りやすく、いかに地元の人たちと交流できるかがカギとなります。人と人との繋がりにからリピーターになる関係人口を増やしていければ、再就職する人や移住者が増えるきっかけになると考えています。
委員	そこで重要なのが農業なのですが、農業の視点からはいかがでしょうか。 観光の視点から農業分野の話をする、今は非常に厳しい状況にあります。近年、中東情勢の影響もあり、全てが物価高で推移しておりますが、農畜産物については生産費の高騰が続く中でも価格転嫁が難しい状況です。消費者の受け止め方も主食のコメを含め食の価格高騰は日常生活に影響が大きいことから、生産者の所得は厳しい状況です。農業人口も激減している一方で、農作業の効率化を図るために法人化するなど事業規模が拡大しており、人対人の関わりを持つ余裕がなくなりつつあります。観光としては、密接な関わりということが重要なポイントだと思いますが、現場として考えると難しい問題や課題が存在している。食や農業に関わる問題は幅広く議論されるべきだと思っていて、皆様の考えを含めてご意見をいただきたいと思っています。
委員	学生の関係人口については私もそう思っており、短大の学生が地域での活動を通して住人の方と触れ合うことで思うことがあると思っています。短大は四年制大学への編入もあり、県外の国公立大学へ進学後、就職する際に短大時代での経験から米沢に戻って就職しているケースを聞いたことがあります。学生と置賜地域の関わり方について、大学と地域住民がどう関わるのかを考えていければ、人口減少改善にも寄与できるのではないかと思います。
事務局	また、資料3-1の2頁、「4観光施設整備」の葉山山荘について、老朽化と自然災害により一部危険箇所があるため改修されるということですが、具体的にどういった改修をされるのでしょうか。 施設の横にある大木が強風被害で倒木し、屋根に接触しており、屋根と壁に一部破損が見受けられ、雨漏りや鳥獣の侵入が発生している状況です。今現在は仮復旧していますが、今年度中はその改修をする予定であり、次年度以降については、全面的な改修をする予定として計画しているところです。
委員	山荘は登山客にとって憩いの場であるので、ぜひ改修していただきたいと思っています。 資料3-1の2頁、「4観光施設整備」の役割分担の追加部分が資料3-2の28頁に反映されていないため、確認のうえ修正をお願いします。

会長

旧長井小学校第一校舎の記載がありますが、登録有形文化財なので修繕が自由で外壁に違う素材が使われていたり、トイレが新しくなっていたり、古い建物の利用としてはとても素晴らしいと思いました。一方で、重要文化財に指定されている旧米沢高等工業学校本館は制限が厳しく、簡単に修繕ができません。修理が入るものの、屋外に関しては元の資材に近いものでないと代替できないことや塗料などにも指定があります。自由な活用ができない観光資源として、古い建物を重要文化財として目指すのもやり方の一つですが、長井市のようなリフォームしつつ趣を残した活用をするという方法もあります。古いものを大事にする姿勢は大事であり、最近は何んでも取り壊しますが、このような木造建築を再現することは二度とできませんので、観光資源としても大切に作る姿勢が大事であると思いました。

委員

まず、資料2-1④環境分野の主な取組と資料3-1の3頁⑤環境について、環境省の「脱炭素先行地域事業」に採択され、米沢市と飯豊町は脱炭素先行地域づくり事業を通じて圏域内の取組の横展開を図るということですが、現在、具体的にどのような取組をしようとしているのでしょうか。

また、民間の再エネ事業として、白布温泉から米沢市に向かう街道で沢の流れを活かした水力発電の開発を進めるという事業者がおり、地権者である私たち温泉旅館に説明に来ているのですが、再エネ事業でありながら結果的に下流の地域に水の影響が出るなど、環境保護ではなく悪い影響が出るのではという懸念を避けるために、行政として何らかの介入や動きの把握をされているのでしょうか。

事務局

脱炭素先行地域づくり事業については、昨年5月に採択され、7年度途中から事業を始めています。米沢市と飯豊町でそれぞれ脱炭素化の取組として、省エネ、創エネ、再エネの利用を大きな軸として事業展開しているほか、米沢牛のサプライチェーンの脱炭素化をメインストーリーに掲げ、ブランディングや農業振興、地域活性化を目指し取り組んでいます。家庭向け、事業者向け、地域向けなど様々取組はありますが、始まったばかりで目に見える成果が示せない状況です。今後は3市5町の農業振興とともに、米沢牛の脱炭素化について地域全体で取り組めるような仕組みを作りたく、米沢牛の糞尿と食品残さを使用しメタンガスを発生させて電気を作り出すところが一番大きい事業であり、米沢市と飯豊町で1つずつプラントを作る計画となっています。電力の地産地消に取り組むというのもストーリーの一部であり、長期の取組となりますが、着実に成果を上げて全体に広げていくことで、多くの方に関わってもらいたいと考えています。

民間事業者の再エネ開発の動きについては、開発行為があった際には申請の機会などを接点に開発を知ることとなります。大規模な開発であればいずれかの窓口での問合せとして、小規模であれば地域の方からの相談として情報共有されるため、そこから事業者へ地域貢献策の依頼や環境保全の対策について聞き取り等を行っています。山形県については、再エネ条例があるため、一定規模以上のエネルギー開発については、県の窓口を通じて市も連携していくことになります。質問にあった小水力発電は、何度も状況の説明と報告をもらい、地域の環境保全をしながら地域貢献も目指して取り組んでほしいと伝えているところではありますが、今のところはこれ以上の進捗は見えていないところです。

- | |
|-------------------------|
| 【 8 その他】
特に意見等はなし |
| 【 9 閉会】
省略 |